



# 瑞二だより

教育目標 自立・貢献・生き抜く力

発行者 江戸川区立瑞江第二中学校  
校長 横枕 耕史  
発行所 東京都江戸川区瑞江4-54-1  
発行日 令和8年(2026年)6月1日  
第559号



## 百花繚乱の笑顔で終わった運動会

開校 60 周年記念 令和 8 年度 第 61 回運動会は、運動会スローガン「百花繚乱～一人一人の個性を咲かせよう～」を掲げ、天気が心配されましたが 5 月 23 日(土)に無事に実施できました。本校の運動会では足の速さだけを競う種目ばかりでなく、運の要素を含んだ「運を味方に」という短距離走があります。この競技はスタート位置をトラックの中心とし、スタート合図の 3 秒後に 3 人のフラッグマンが挙げた紅白の旗で多く挙げたコースで赤なら右回り、白なら左回りで半周回って反対側のゴールまで走るルールです。選手はスタートの合図後に紅白どちらかに予想を立てリードしても良いため、足の速さより運が試される競技で、選手の予想が当たったり外れたりと観客が見ても楽しめる競技です。この他には、学級の勝利を目指し必死にバトンをつないで走る全員リレーや心を一つにして回数を競う大縄跳び、学年種目など学級の仲間と力を合わせて取り組む団体種目が行われました。生徒は勝敗にこだわりながら一喜一憂し、学級の絆を深めていました。また、リーダーシップを発揮した運動会実行委員の活躍、開校 60 周年記念種目「大玉送り」を企画し盛り上げた生徒会役員、応援旗制作に尽力した生徒、運動会係の仕事を分担し取り組んだ各専門委員会の生徒、そして、生徒の晴れの場を支え続けた教職員や PTA の方々、多くの人の活躍、尽力や心遣いがあったからこそ、運動会は成功したといえます。



現代社会はスマートフォンをのぞき込むように個人主義や利己的な思考が優先され、不干渉で人間関係が希薄になりがちですが、運動会を通じて生徒同士が他者とリアルにつながり、絆を深め、よりよい人間関係を築くことができました。笑顔の花が満開と咲いた開校 60 周年にふさわしい素晴らしい運動会だったと思います。

## 「立志面談」将来の「なりたい自分」とは？

さて、先日、文部科学省の方から次期学習指導要領改訂についての話を聞く機会がありました。2040 年頃の日本は、人口減少・少子高齢化による生産労働年齢人口の減少、在留外国人の増加によるグローバル化、社会の急速なデジタル化(Society5.0)による人材需給の変容(AI 代替される事務職などが余剰となり、AI・ロボット等利活用を担う人材、生産工程従事者・技術者などが不足となる。)など予測されています。そのため、これから人生 100 年時代を生きる子どもたちには、**自らの人生を舵取りする力を身に付けさせ、民主的で持続可能な社会の創り手として、「好き」を育み、「得意(興味・関心)」を伸ばす、当事者意識を持って、自分の意見を形成し、対話と合意ができる人材の育成が教育のキーワードとされました。**

本校では教育目標「自立・貢献・生き抜く力」の下、生徒一人ひとりが自分の「好き」や「得意」を伸ばしながら、将来の夢や目標を考え、その実現のために計画的に目的意識を持って自ら行動することを推奨しています。未来は与えられるものではなく自分の意思でつかみ取るものです。4 月の全校朝礼では「叶」の字のように「**口に+プラスとなるポジティブな言葉を発しよう！ポジティブ・シンキングで夢を叶えよう！**」と話しました。

そこで、生徒の「立志」の機会の一つとして、**将来の「なりたい自分」について校長にプレゼンしてもらう「立志面談」**を 3 年生対象に今月の昼休みや放課後の時間に一人ずつ実施していきます。これは 3 年生の受験期の面接試験対策として行う面接練習とは異なり、生徒が自分の進路、夢や目標を考えさせるためのものです。校長には生徒を応援しエールを贈ることしかできませんが、生徒が直近の進学だけでなく、どんな将来や夢、就きたい職業を思い描いているのか、自身の「立志」について真剣に考えたことを熱く語ってくれることを期待しています。この取組が生徒自らの人生の舵を取るアクションの一つになってくれれば幸いです。